

大学生が使用する挨拶語とその選択基準

—日本語教育で提示する挨拶語を考える—

皆川 晶*

The Selection Criteria of Greetings Used by College Students — Consideration of Greetings Presented in the Japanese Education —

by

Aki MINAGAWA*

要 旨

大学生が非日常的な挨拶をする場面で、どのような挨拶語を使用しているのか。また、その選択基準について調査した。大学1年生を対象に、11の場面を設定し、それぞれの場面において、同輩や年下、年上の場合、どのような挨拶語を使用するのかを調査した。同じ調査を日本語の学習をしている留学生にも行った。

大学生は、相手が年上の場合は、形式的な挨拶語を使用しているが、相手が同輩や年下の場合は、親近感から気軽に話せるくだけた表現を使用している。

大学生の実態を踏まえて、日本語学習者、日本語教育における挨拶語の提示のあり方を考察する。

Key Words: 挨拶語、敬意、日本語教育

1、はじめに

わたしたちは、社会の中で互いのよりよい関係を維持するために挨拶を重要視している。家族、学校、社会の中で、相手やその場面に応じた言葉をこれまでの経験値により、多様な挨拶語として使い分けしている。日常的な挨拶には、相手や場面に関わりなく、つねに一定の形式化された言葉が繰り返し使われる。また、非日常的な挨拶は、限定された相手や場面にしか使用されないため、表現的に何通りも存在する。

日本語の学習を始めて半年から4年の留学生に「好きな日本語は何ですか」と質問したところ、〈感謝の気持ちを持つのが重要、きれいな

言葉〉という理由から「ありがとうございます」、「日本人がよく使っていて、どんな場面でも使える」〈礼儀がある〉という理由から「すみません」、〈言う人も言われる人も両方とも尊重を感じる〉という理由から「どうぞ」、〈日本人の人情を感じる〉という理由から「おつかれさま」という言葉があがった。ほかには、〈おもしろい〉という理由から「ういーす」「あぎーす」といういかにも若者らしい言葉があがった。

これらの言葉は、わたしたちが人とコミュニケーションをとるために使う挨拶語である。

「ありがとうございます」や「すみません」は日本語を学ぶ教科書には出てくるが、「ういーす」や「あぎーす」は大学生が日常会話で使っている、まさに生きた言葉である。留学生が日

*崇城大学総合教育非常勤講師

本語を学んでいるキャンパスの中では教科書で学んだ言葉とは違う「ういーす」や「あざーす」が飛び交い、戸惑う留学生も多いのである。

そこで、留学生が学んでいる環境の中で、一番近い相手である日本の大学生がどのような挨拶語を使用し、相手や場面によってどのように使い分けをしているのか実態を把握し、その結果を踏まえて、日本語学習者、日本語教育における挨拶語の提示のありかたを再考するための基盤のひとつにしようとするものである。

挨拶語の使い方についての実証的研究に、日本語と中国語の日常的な挨拶を比較し、「日本語の指導に当たっては、日本の民族の特性・風俗習慣・文化などを十分に理解しなければならない」ことを考察した、皇麗梅・川本信幹の研究「日本語・中国語における挨拶語の比較研究—中国における日本語教育の視点から—」（『日本体育大学紀要』26巻2号1997年）がある。

また、曲志強の研究「日本語と中国語のあいさつ表現について—大人と子どもの間の談話分析—」（山口大学人文学部国語国文学会発行『山口国文』第32号2009年）で、「日本人のあいさつ表現が場面ごとに、その時その場面にもっとも適合すると思われる定型表現があることが、特徴的である」と分析している。

本稿では、大学生が非日常的な挨拶をする際、同輩や年下、先輩や年上に対して、どのような言葉を使用し、その選択基準をどこにおくのかを考察する。

2、調査にあたって

（1）調査目的および調査日

大学生が非日常的な挨拶をする場面でのどのような言葉を使用しているのか、その選択基準はどこにあるのかを見るために、2013年5月から6月にかけてアンケート調査を実施した。

（2）調査協力者

調査協力者は、日本の学生は福岡県のK大学1年生男子学生84名、女子学生8名、熊本県のS大学1年生男子学生66名、女子学生32名の計190名である。留学生は福岡県のF大学の男子

学生4名、女子学生11名と、福岡県のK大学の女子学生2名の計17名である。

調査協力者の出身地は、以下のとおりである。
 福岡県 46名、熊本県 43名、鹿児島県 20名、
 宮崎県 12名、長崎県 12名、大分県 9名、
 兵庫県 8名、広島県 6名、佐賀県 6名、
 大阪府 4名、愛媛県 2名、徳島県 2名、
 岡山県 2名、福井県 2名、滋賀県 2名、
 京都府 2名、山口県 2名、鳥取県 1名、
 島根県 1名、奈良県 1名、埼玉県 1名、
 愛知県 1名、静岡県 1名、三重県 1名、
 北海道 1名、沖縄県 1名、和歌山県 1名、
 計190名
 韓国 15名、台湾 2名、計17名

（3）調査内容

○質問

非日常的な挨拶をするとき、相手が同輩や年下の場合と年上の場合、あなたはどのような挨拶をしますか。なぜそのように言うのか理由も具体的に書いてください。（複数回答可）

○調査項目

- ①人に呼びかけるとき
- ②人を訪問するとき
- ③人に訪問されたとき
- ④初対面の人に会ったとき
- ⑤人にものを尋ねるとき
- ⑥人に感謝するとき
- ⑦人に謝るとき
- ⑧人から謝られたとき
- ⑨人をねぎらうとき
- ⑩人に物を贈るとき
- ⑪人に物を贈られたとき

3、調査結果

調査の結果は、使用する言葉の多い順に、選択理由とともに記載する。なお、選択理由についての記述がないものは、記載しない。

（1）大学生の場合

- ① 人に呼びかけるとき
（同輩や年下の場合）

「名前を呼ぶ」→30人
 わかりやすいから1人、
 呼びやすいから1人、
 伝わりやすいから1人
 「おーい」→29人
 気軽に話せるから2人、
 親しみを込めて2人、なんとなく1人、
 立場が同じだから1人
 「おい」→25人
 気を使わなくて言えるから1人、
 敬語は必要ない1人、気軽に1人、
 なんとなく1人
 「ねえ」→21人
 礼儀良くしなくてもいいから1人、
 判別つけやすいから1人、
 親しみやすく1人、気軽に1人、
 自然に1人、軽く1人
 「ねえねえ」→20人
 こう言うように教育されたから1人、
 丁寧さがいらぬから1人、
 言いやすいから1人、親近感1人
 「なあ」→8人
 「ちょっといい」→8人
 同輩や年下だから1人、自然と1人
 「ちょっと」→5人
 「あのさ」→5人
 昔から言っていたから1人
 「よっ」→5人
 気軽だから1人
 「すみません」→5人
 「すみません」→3人
 気軽に話せるから1人
 「なあなあ」→2人
 親しみを込めて1人
 「ちょっとごめん」→2人
 気を使う相手ではないから1人
 「あだなで呼ぶ」→2人
 「あの」→2人
 「ちょっと来て」→1人
 「おいおい」→1人
 「ん」→1人
 なんとなく1人
 「すまぬ」→1人

「すまん」→1人
 「どうしました」→1人
 「どうした」→1人
 「何しよう」と→1人
 「ちょいそこ」→1人
 「聞いて」→1人

以上から、「名前を呼ぶ」のが16%、「おーい」が15%、「おい」が13%であった。「ねえ」を使用する21人のうち、女子学生は5人であったのに対し、「ねえねえ」を使用する20人のうち10人が女子学生であり、女子学生の使用頻度が高い。「おい」「おーい」はぞんざいな表現であるのに対し、「ねえ」は女性語的であり、「ねえねえ」と繰り返すことにより、さらに女性語的な表現になり、相手の注意を強く引きたい気持ちが表われている。

(年上の場合)

「すみません」→65人
 年上だから7人、敬意を払って7人、
 丁寧にしたいから6人、常識的に2人、
 こう言うように教育されたから1人、
 失礼のないように1人、自然と1人
 「すいません」→52人
 年上だから8人、丁寧に3人、常識1人、
 失礼のないようにするため1人、
 控えめに1人、敬意を示すため1人、
 うざい先輩にからまれないようにするため
 1人、無難に使えるから1人、
 昔から言っていたから1人
 「〇〇さん、〇〇先輩」→37人
 年上だから8人、わかりやすく2人、
 上下関係が大切だから2人、丁寧に1人、
 敬意を込めて1人
 「あの」→7人
 「ちょっといいですか」→6人
 敬いを込めて1人、自然に1人
 「こんにちは」→4人
 年上だから1人
 「おーい」→1人
 「どうも」→1人
 「失礼します」→1人

「何ですか」→1人
 「ごめんください」→1人
 「どうなさいました」→1人
 「おつかれさまです」→1人
 「いいですか」→1人
 「何してるんですか」→1人

以上から、「すみません」を使用する学生が34%、「すいません」が27%、「〇〇さん、〇〇先輩」が19%であった。

② 人を訪問するとき

(同輩や年下の場合)

「おじゃまします」→84人
 礼儀5人、常識3人、気軽に2人、
 親しみを込めて2人、なんとなく1人、
 言葉遣いを正しくするべき1人、習慣1人
 「おーい」→8人
 気安く1人
 「こんにちは」→7人
 「どうも」→7人
 昔から言っていたから1人、
 なんとなく1人
 「おじゃま」→7人
 自然と1人
 「すいません」→5人
 親しみを込めて1人
 「失礼します」→4人
 「ごめん」→3人
 「ごめんください」→2人
 こう言うように教育されたから1人
 「すみません」→2人
 丁寧さがいないから1人
 「ういー」→2人
 なんとなく1人
 「やあ」→2人
 かしこまる必要がないから1人
 「やっほー」→2人
 気軽に1人
 「ちょっといい」→2人
 「なあ」→1人
 「入るよ」→1人
 気軽に話せるから1人

「じゃまします」→1人
 「ちわっす」→1人
 「あがるよ」→1人
 「じゃまするよ」→1人
 「久しぶり」→1人
 「おい」→1人
 「ちゅーす」→1人
 「ういーす」→1人
 「よっ」→1人
 「おっす」→1人
 「ちーす」→1人
 「来たよ」→1人
 「くるけーん」→1人
 「おじゃました」→1人
 「おじゃましますよ」→1人
 「もしもーし」→1人

以上から、同輩や年下の場合でも、「おじゃまします」を使用する学生が44%と多かった。

(年上の場合)

「おじゃまします」→77人
 年上だから6人、礼儀4人、習慣2人、
 敬意を込めて2人、常識2人、自然と1人、
 言葉遣いを正しくするべき1人、
 昔から言っていたから1人
 「失礼します」→37人
 常識的に4人、年上だから4人、
 丁寧に2人、敬意を込めて1人、
 無難に使えるから1人
 「こんにちは」→12人
 年上だから1人
 「ごめんください」→10人
 敬うため2人、年上だから1人、
 こう言うように教育されたから1人、
 丁寧に1人
 「すいません」→9人
 敬いを込めて1人、年上だから1人
 「すみません」→6人
 丁寧に2人
 「おつかれさまです」→2人
 常識1人
 「いらっしゃいますか」→2人

年上だから 2人
「ちわっす」→1人
「おじゃまいたします」→1人
丁寧にしたから 1人
「あの」→1人
「久しぶりです」→1人
「どうも」→1人
「おじゃました」→1人

以上から、「おじゃまします」を使用する学生が41%、「失礼します」が19%であった。

③ 人に訪問されたとき
(同輩や年下の場合)

「いらっしゃい」→61人
常識3人、自然と2人、なんとなく1人、
親しみやすく1人、気軽だから1人、
昔から言っていたから1人、
こう言うように教育されたから1人
「どうぞ」→39人
親しみを込めて1人、礼儀1人、習慣1人、
常識1人、軽く1人、無難に1人
「はい」→7人
丁寧さがいらぬから1人、
立場が同じだから1人
「こんにちは」→6人
「やあ」→4人
かしこまる必要がないから1人
「どうした」→4人
なんとなく1人
「おう」→4人
「ようこそ」→3人
気軽に話せるから1人
「うい」→2人
「入って」→2人
「ども」→2人
「ういーす」→2人
「はい」→2人
「はいはい」→1人
親しみを込めて1人
「敵襲」→1人
「なんや」→1人
「よっ」→1人

気軽に話せるから 1人

「何ね」→1人
「なに」→1人
「ええよ」→1人
「やっほー」→1人
「ん」→1人
「おっす」→1人
「入っていいよ」→1人
「どうも」→1人
「よう」→1人
「なんできた」→1人

以上から、「いらっしゃい」を使用する学生が32%、「どうぞ」が20%であった。

(年上の場合)

「どうぞ」→43人
敬うため3人、年上だから2人、習慣1人、
礼儀1人、常識1人、丁寧に1人、
失礼のないように1人、無難に1人
「いらっしゃいませ」→27人
年上だから4人、丁寧に2人、
習慣1人、常識1人、
昔から言っていたから1人、
こう言うように教育されたから1人
「いらっしゃい」→18人
年上だから2人、敬意を込めて2人、
言葉遣いを正しくするべき1人、
丁寧にしたいから1人、自然と1人、
歓迎の意を込めて1人
「こんにちは」→13人
常識1人
「はい」→8人
「どうぞ中にお入りください」→4人
常識的に1人、年上だから1人
「どうぞおあがりください」→3人
自然と1人
「ようこそいらっしゃいました」→2人
常識1人
「何ですか」→2人
「ようこそ」→2人
「わざわざすみません」→1人
丁寧に1人

「はいはい」→1人
 敬いを込めて1人
 「やあ」→1人
 「どうしたんですか」→1人
 「どうしましたか」→1人
 「どうしたんすか」→1人
 「どうも」→1人
 「何か用ですか」→1人
 「どうぞ入ってください」→1人
 「どうぞいらっしゃいました」→1人
 「どうぞあがってください」→1人
 「ご足労おかけします」→1人
 「はい」→1人
 「どうぞこちらへ」→1人
 「何でしょう」→1人
 「どうぞどうぞ」→1人
 「ごぶさたしてます」→1人

以上から、「どうぞ」を使用する学生が23%、「いらっしゃいませ」が14%、「いらっしゃい」が9%であった。

④ 初対面の人に会ったとき
 (同輩や年下の場合)

「はじめまして」→86人
 礼儀2人、常識2人、初対面だから1人、
 よい印象をもたれるように1人、
 気軽に話せるから1人、なんとなく1人、
 昔から言っていたから1人、
 こう言うように教育されたから1人
 「こんにちは」→22人
 立場が同じだから1人
 「どうも」→20人
 気軽に話せる仲だから1人、自然と1人、
 少し気まずいから1人、無難に1人、
 なんとなく1人
 「よろしく」→14人
 照れくさいから1人、気軽に1人、
 なんとなく1人
 「すみません」→3人
 親しみを込めて1人
 「すみません」→2人
 「うい」→2人

「ねえねえ」→2人
 「ちゃーす」→2人
 恥ずかしいから1人
 「ちーす」→2人
 恥ずかしいから1人
 「うす」→1人
 「よろしくね」→1人
 「こんにちはです」→1人
 「おつかれ」→1人
 「ちょっといい」→1人
 「ちわー」→1人
 「よろしくお願いします」→1人
 「ねえ」→1人
 「やあ」→1人

以上から、「はじめまして」を使用する学生が45%、「こんにちは」が12%、「どうも」が11%であった。

(年上の場合)

「はじめまして」→112人
 年上だから12人、常識的に5人、
 敬うため3人、初対面だから2人、
 丁寧に2人、礼儀2人、自然と2人、
 失礼のないように2人、
 良い人に見られたいから1人、
 良い印象をもたれるように1人、
 昔から言っていたから1人、
 こう言うように教育されたから1人、
 うざい先輩にからまれないようにするため
 1人
 「こんにちは」→26人
 年上だから1人
 「よろしくお願いします」→9人
 言葉遣いを正しくするべき1人、
 失礼がないように1人、年上だから1人
 「どうも」→7人
 丁寧にしたいから1人、敬意を込めて1人、
 無難に1人
 「すみません」→4人
 敬意を込めて1人
 「すみません」→3人
 敬意を払って1人、丁寧に1人

「おはつにお目にかかります」→2人

敬意を込めて1人

「よろしくっす」→1人

「おつかれさまです」→1人

「はじめました」→1人

以上から、「はじめまして」を使用する学生が59%、「こんにちは」が14%であった。

⑤ 人にものを尋ねるとき

(同輩や年下の場合)

「すみません」→22人

礼儀2人、常識1人、なんとなく1人

「ちょっといい?」→21人

自然に2人、少し下でに出る1人、

気軽に1人

「すみません」→19人

礼儀1人、常識1人、

気軽に話せるから1人

「ねえ」→14人

軽く1人

「ねえねえ」→14人

親近感1人、

こう言うように教育されたから1人

「ごめん」→10人

礼儀よくしなくてもいいから1人、

親しみやすく1人、すまないから1人、

昔から言っていたから1人

「あの」→9人

立場が同じだから1人

「あのさ」→8人

気軽に話せる仲だから1人、

かきこまる必要がないから1人、

親しみを込めて1人

「なあなあ」→5人

「なあ」→4人

気楽に1人

「ちょっとごめん」→2人

気を使う相手でないから1人

「わるいけど」→2人

「ごめんけど」→2人

「これなんなん」→1人

「ちょっといいけ」→1人

「これ〜やと?」→1人

なんとなく1人

「これ〜け?」→1人

「おーい」→1人

「おい」→1人

「ちょっと」→1人

無難に1人

「ちょっとすまん」→1人

「少しいい?」→1人

「教えて」→1人

「ねえさ」→1人

「こんにちは」→1人

「何ですか」→1人

「ごめん」→1人

「すまん」→1人

「すまんけど」→1人

「ちょっと聞きたいんだけど」→1人

「聞きたいことがあるんだけど」→1人

「教えてもらってもいい」→1人

以上から、「すみません」を使用する学生が12%、「ちょっといい?」が11%、「すみません」が10%であった。

(年上の場合)

「すみません」→68人

年上だから6人、敬意4人、常識2人、

敬うため2人、丁寧に2人、自然と1人、

こう言うように教育されたから1人、

礼儀1人

「すみません」→54人

年上だから8人、失礼のないように2人、

礼儀2人、丁寧に2人、すまないの1人、

昔から言っていたから1人、無難に1人、

常識1人、敬意を示すため1人、うざい先

輩にからまれないようにするため1人

「あの」→6人

失礼のないように1人

「ちょっといいですか」→6人

気まずさを感じるため1人、

年上だから1人、丁寧に1人

「すみません、ちょっとよろしいですか」

→2人

常識的に1人、年上だから1人
「こんにちは」→2人
「これは何ですか」→2人
習慣1人
「すみませんが、よろしいでしょうか」→2人
敬意を込めて1人
「少々よろしいですか」→2人
丁寧にしたから1人
「少しいいですか」→2人
「どうでしょうか」→2人
「あの、いいですか」→1人
「おたずねします」→1人
「ねえねえ」→1人
「よろしいでしょうか」→1人
年上だから1人
「少し聞いてもいいですか」→1人
自然と1人
「ちょっとよろしいですか」→1人
「お聞きしたいことがあるのですが」→1人
「質問してもいいですか」→1人
「教えてもらってもいいですか」→1人
「どうなんですか」→1人
「あんねえ」→1人
「これは」→1人
「これ〜かね?」→1人

以上から、「すみません」を使用する学生が36%、「すいません」が28%であった。

⑥ 人に感謝するとき

(同輩や年下の場合)

「ありがとう」→153人

気軽に話せる仲だから4人、常識3人、
親しみを込めて3人、感謝するから3人、
礼儀よくしなくてもいいから2人、
ありがたいから2人、自然と2人、
かしこまる必要がないから1人、礼儀1人、
恐縮する相手でないから1人、軽く1人、
敬語は必要ない1人、照れくさいから1人、
立場が同じだから1人、無難に1人、
昔から言っていたから1人、
こう言うように教育されたから1人
「サンキュー」→10人

親しみを込めて1人
「ありがとう」→4人
気軽に1人
「あざーす」→4人
「サンキュ」→3人
若干のおふざけ1人
「あんがと」→2人
なんとなく1人
「ありがとうございます」→2人
「どうも」→2人
「ありゃーと」→1人

以上から、「ありがとう」を使用する学生が81%であった。

(年上の場合)

「ありがとうございます(ました)」→168人
年上だから20人、敬意を込めて11人、
丁寧にしたから7人、常識的に6人、
失礼のないように3人、感謝するから3人、
ありがたいから2人、自然と2人、
昔から言っていたから1人、
言葉遣いを正しくするべき1人、
よい人に見られたいから1人、
こう言うように教育されたから1人、
うざい先輩にからまれないようにするため
1人、無難に1人
「あざっす」→4人
「ありがとう」→3人
礼儀1人
「すみません(でした)」→3人
常識1人
「心から感謝いたします」→1人

以上から、「ありがとうございます(ました)」を使用する学生が88%であった。

⑦ 人に謝るとき

(同輩や年下の場合)

「ごめん」→133人

気軽に話せる仲だから3人、親近感2人、
礼儀よくしなくてもいいから2人、
恐縮する相手でないから1人、常識1人、

かしこまる必要がないから1人、
昔から言っていたから1人、自然と1人、
立場が同じだから1人、無難に1人、
軽くすませるため1人

「すまん」→18人

よそよそしくない程度に1人、
なんとなく1人

「ごめんなさい」→11人

礼儀2人、親しみやすく1人、常識1人

「すみません」→9人

「ごめんね」→8人

こう言うように教育されたから1人

「すいません」→4人

「すまぬ」→2人

「申しわけない」→2人

「わりー」→2人

「わるい」→1人

「すまない」→1人

「ごめんなあ」→1人

親しみを込めて1人

「ごめんな」→1人

「まじごめん」→1人

以上から、「ごめん」を使用する学生が70%、
「すまん」が9%であった。

(年上の場合)

「すみません (でした)」→70人

年上だから4人、敬意3人、丁寧2人、
言葉遣いを正しくするべき1人、常識1人、
昔から言っていたから1人、自然と1人、
こう言うように教育されたから1人

「すいません (でした)」→57人

年上だから9人、丁寧2人、
敬いを込めて2人、常識的に2人、
無難に1人、失礼のないように1人、
申しわけなさをだしたいから1人、
うざい先輩にからまれないようにするため
1人

「ごめんなさい」→45人

年上だから7人、常識的に4人、
敬うため3人、礼儀2人、丁寧1人、
自然と1人、感謝をより伝えるため1人

「申しわけありません (でした)」→8人

丁寧に1人、年上だから1人、
敬意を込めて1人

「申しわけございません (でした)」→3人

失礼のないように2人

「どうもすみませんでした」→1人

かたい雰囲気1人

「恐縮です」→1人

「申しわけないです」→1人

以上から、「すみません (でした)」を使用する
学生が37%、「すいません (でした)」が30%、
「ごめんなさい」が24%であった。

⑧ 人から謝られたとき

(同輩や年下の場合)

「いいよ」→72人

気軽に話せる仲だから3人、
親しみを込めて3人、常識1人、
恐縮する相手ではないから1人

「いえいえ」→13人

こう言うように教育されたから1人

「大丈夫」→11人

礼儀よくしなくてもいいから1人、
かしこまる必要がないから1人、
親しみを込めて1人

「別にいいよ」→5人

「気にしないで」→4人

「ええよ」→4人

無難に1人、敬語は必要ない1人

「いやいや」→4人

「OK」→3人

「気にするな」→3人

「気にすんな」→3人

「うん」→3人

「いーえ」→2人

「いいえ」→2人

昔から言っていたから1人

「いいバイ」→2人

立場が同じだから1人

「いいよいいよ」→2人

習慣1人

「えーで」→2人

「気にせんでいいよ」→2人
 「まあ、いいけどさ」→1人
 長引かせたくないから1人
 「まあ、いいじゃない」→1人
 自然と1人
 「どうも」→1人
 「よかよ」→1人
 「いい」→1人
 「許さん」→1人
 「許す」→1人
 「すまぬ」→1人
 「ゆるさねえ」→1人
 「どういたしまして」→1人
 「いいえ、全然大丈夫です」→1人
 「よかよか」→1人
 「いいのよ」→1人
 「全然ええでえ」→1人
 「いや大丈夫、こっちこそ悪かった」→1人
 「おう」→1人
 「ありがとう」→1人
 「気にせんでよかよ」→1人
 「わかった」→1人
 「どんまい」→1人
 「おかまいなく」→1人
 「よいよい」→1人
 「ごめん」→1人

以上から、「いいよ」を使用する学生が38%、
 「いえいえ」が7%であった。

(年上の場合)

「大丈夫です」→35人
 年上だから5人、敬意3人、常識1人、
 昔から言っていたから1人、丁寧な1人、
 良い人に見られたいから1人
 「いいですよ」→23人
 年上だから2人、丁寧な1人、常識1人、
 習慣1人、無難に1人
 「いえいえ」→22人
 失礼のないように1人、丁寧な1人、
 年上だから1人、常識1人、
 こう言うように教育されたから1人
 「気にしないでください」→12人

敬うため1人、年上だから1人、
 丁寧にしたいから1人、
 失礼のないように1人
 「大丈夫ですよ」→9人
 常識1人
 「全然大丈夫です」→6人
 敬意を込めて1人、
 言葉遣いを正しくするべき1人
 「どういたしまして」→5人
 「いえいえ大丈夫です」→4人
 年上だから1人
 「すみません」→3人
 自然に1人
 「こちらこそすみません」→3人
 年上だから1人
 「お気になさらずに」→2人
 年上だから1人
 「気になさらないでください」→2人
 年上だから1人
 「いいです」→2人
 「いいっすよ」→2人
 「別にいいです」→2人
 敬意を込めて1人
 「いえいえこちらこそ」→2人
 丁寧に1人
 「はい」→2人
 気まずいから1人
 「全然いいっすよ」→1人
 「全然いいですよ」→1人
 「気にしなくていいですよ」→1人
 「気にすんな」→1人
 「気にしてません」→1人
 敬意を示すため1人
 「気にしていませんよ」→1人
 「気にとめないでください」→1人
 常識1人
 「とんでもありません」→1人
 敬意を込めて1人
 「いえいえとんでもない」→1人
 「大丈夫っす」→1人
 「まあ、いいじゃないですか」→1人
 自然と1人
 「恐縮です」→1人

「おかまいなく」→1人
 「わかりました」→1人
 「こちらこそ」→1人
 「いやいや」→1人
 「ありがとうございます」→1人

以上から、「大丈夫です」を使用する学生が18%、「いいですよ」が12%、「いえいえ」が12%であった。

⑨ 人をねぎらうとき
 (同輩や年下の場合)

「おつかれ」→60人
 礼儀よくしなくてもいいから2人、
 自然と1人、親しみを込めて1人、
 かしこまる必要がないから1人、
 昔から言っていたから1人
 「ありがとう」→39人
 感謝しているから2人、礼を示す1人、
 気軽に言えるから1人、常識1人
 「おつかれさま」→11人
 親しみを込めて1人、
 こう言うように教育されたから1人
 「よくやった」→6人
 「がんばったね」→4人
 気軽に話せるから1人
 「がんばれ」→3人
 同じような目線で言うから1人
 「がんばったな」→2人
 自然と1人
 「おめでとう」→2人
 「ごめん」→2人
 「ご苦労」→2人
 気軽だから1人
 「ありがと」→2人
 気軽に話せる仲だから2人
 「あざっす」→2人
 「さんきゅ」→2人
 「ありがとな」→1人
 親しみを込めて1人
 「マジさんきゅ」→1人
 なんとなく1人
 「おねがい」→1人

「ご苦労さま」→1人
 恐縮する相手でないから1人
 「どんまい」→1人
 「ありがとうございます」→1人
 「本当ありがとう」→1人
 「すげえ」→1人
 「大丈夫」→1人
 「おつかれさん」→1人
 敬語を使わなくていいから1人
 「ありがとさん」→1人
 「おっつー」→1人
 「ファイト」→1人
 「すまん」→1人
 「Good job！」→1人
 「いいね」→1人
 「すまん」→1人
 「おつかれさまです」→1人
 「よかったね」→1人

以上から、「おつかれ」を使用する学生が32%、「ありがとう」が21%であった。

(年上の場合)

「おつかれさまです(でした)」→76人
 年上だから8人、敬意を示すため8人、
 丁寧に4人、昔から言っていたから1人、
 言葉遣いを正しくするべき1人、
 良い人に見られたいから1人、自然と1人
 「ありがとうございます(ました)」→39人
 年上だから5人、常識4人、習慣1人、
 失礼のないように1人、
 敬意を払って1人
 「ご苦労様です」→7人
 年上だから1人、失礼のないように1人、
 こう言うように教育されたから1人、
 自然と1人
 「おめでとうございます」→5人
 敬意を込めて1人
 「本当にありがとうございます」→4人
 年上だから1人
 「おつかれさま」→3人
 年上だから1人、常識1人
 「ありがとう」→2人

敬意 1人
「がんばってください」→2人
少し下から言うから 1人
「すごいですね」→2人
年上だから 1人
「おつかれっす」→1人
敬いを込めて 1人
「おつかれです」→1人
「おつかれさんです」→1人
「おつかれ」→1人
「すみません」→1人
「すみません」→1人
「どんまいです」→1人
年上だから 1人
「お願いします」→1人
「マジありがとうございます」→1人
「本当すみません」→1人
感謝する 1人
「わざわざすみません」→1人
丁寧にしたから 1人
「おめでとう」→1人
「感謝します」→1人
「大丈夫ですよ」→1人
「ごめんなさい」→1人
「たすかりました」→1人

以上から、「おつかれさまです（でした）」を使用する学生が40%、「ありがとうございます（ました）」が19%であった。

⑩ 人に物を贈るとき
(同輩や年下の場合)

「どうぞ」→80人
気軽に 2人、礼儀 1人、常識 1人、
習慣 1人、親しみを込めて 1人、
自然と 1人、昔から言っていたから 1人、
こう言うように教育されたから 1人
「あげる」→24人
かしこまる必要がないから 1人、
親しみやすく 1人、照れくさいから 1人
「はい」→23人
「はいよ」→5人
親しみを込めて 1人

「はい」→4人
「ほらよ」→2人
なんとなく 1人
「どう」→2人
「やる」→2人
気軽に話せる仲だから 1人
「へい」→1人
「ほら」→1人
「もらってええよ」→1人
軽いノリで 1人
「どうぞ」→1人
「贈ったからね」→1人
「やるばい」→1人
「つまらないものですが」→1人
「つまらないものだけど」→1人
「これ、いらん？」→1人
「もらっといて」→1人
気を使う相手でないから 1人
「あげるわ」→1人
「やるよ」→1人
「よかったら」→1人
「プレゼント フォーユー」→1人
「いる？」 1人

以上から、「どうぞ」を使用する学生が42%、「あげる」が13%であった。

(年上の場合)

「どうぞ」→99人
年上だから 10人、丁寧 4人、
敬いを込めて 3人、常識的に 2人、
失礼のないように 2人、習慣 1人、
生意気に見えないように 1人、礼儀 1人、
自然に 1人、
良い人に見られたいから 1人、
言葉遣いを正しくするべき 1人、
昔から言っていたから 1人、
こう言うように教育されたから 1人
「つまらないものですが」→21人
年上だから 3人、敬意 1人、常識 1人
「よかったらどうぞ」→6人
失礼のないように 1人
「粗品ですが」→4人

丁寧な1人
 「どうぞよろしければ」→2人
 年上だから1人
 「もしよかったら」→2人
 敬うため1人、年上だから1人
 「よかったら」→2人
 敬うため1人、年上だから1人
 「もらってください」→2人
 「あげます」→2人
 「さしあげます」→2人
 年上だから1人、敬意を込めて1人
 「うけとってください」→2人
 「おうけとりください」→2人
 自然と1人、年上だから1人
 「贈ります」→1人
 「いりますか」→1人
 「あげる」→1人
 「はい」→1人
 「おみやげです」→1人
 「どうでしょうか」→1人
 「どうぞうけとってください」→1人
 「どうっすか」→1人
 「どうぞです」→1人
 「粗末な物ですが」→1人
 丁寧な1人
 「お気に召したらお使いください」→1人

以上から、「どうぞ」を使用する学生が52%、
 「つまらないものですが」が11%であった。

⑩ 人に物を贈られたとき

(同輩や年下の場合)

「ありがとう」→147人
 親しみを込めて3人、礼儀2人、常識2人、
 気軽に話せるから2人、自然と1人、
 感謝を表すため1人、照れくさいから1人、
 礼儀よくしなくてもいいから1人、
 昔から言っていたから1人、軽く1人、
 かしこまる必要がないから1人、
 こう言うように教育されたから1人
 「ありがと」→6人
 気軽に話せる仲だから2人
 「どうも」→5人

「サンキュー」→3人
 気軽に話せる仲だから1人
 「あざーす」→2人
 立場が同じだから1人
 「ありがとうございます」→2人
 「Thanks」→1人
 なんとなく1人
 「本当にくれるん？」→1人
 「おー」→1人
 「ありがたい」→1人
 「いいよいいよ」→1人
 遠慮するから1人

以上から、「ありがとう」を使用する学生が
 77%であった。

(年上の場合)

「ありがとうございます(ました)」→147人
 年上だから21人、敬うため7人、
 常識的に6人、丁寧にしたいから5人、
 失礼のないように2人、感謝をより伝える
 ため2人、良い人に見られたいから1人、
 言葉遣いを正しくするべき1人、普通1人、
 昔から言っていたから1人、自然と1人、
 こう言うように教育されたから1人
 「ありがとう」→5人
 礼儀1人
 「ありがたくうけとります」→2人
 礼儀1人
 「あざーす」→2人
 敬いを込めて1人
 「いただきます」→2人
 「あざっす」→1人
 「恐れ入ります」→1人
 「本当にもらっていいんですか」→1人
 「大切にに使わせていただきます」→1人
 「ありがたき」→1人
 「いいんすか」→1人

以上から、「ありがとうございます(まし
 た)」を使用する学生が77%であった。

(2) 留学生の場合

調査対象者は、日本語の学習を始めて半年から4年の留学生である。留学生には、同輩や年下、年上の場合など、話す相手を特定せずに質問した。なお、選択理由を記述したものはなかった。

① 人に呼びかけるとき

「すみません」→10人

「あの」→3人

「おっす」→1人

② 人を訪問するとき

「おじゃまします」→10人

「失礼します」→8人

「ごめんください」→1人

③ 人に訪問されたとき

「どうぞ」→10人

「おあがりください」→5人

「いらっしゃいませ」→2人

「おいでくださってありがとうございます」
→1人

④ 初対面の人に会ったとき

「はじめまして」→14人

「よろしく願います」→3人

⑤ 人にもものを尋ねるとき

「すみません」→14人

「おたずねしたいことがあります」→1人

⑥ 人に感謝するとき

「ありがとうございます(ました)」→15人

⑦ 人に謝るとき

「すみません」→10人

「ごめんなさい」→9人

「わるかった」→2人

「申しわけありません」→2人

「申しわけございません」→1人

「すまん」→1人

⑧ 人から謝られたとき

「大丈夫です」→10人

「どういたしまして」→6人

「いいよ」→2人

「気にしないでください」→1人

⑨ 人をねぎらうとき

「おそれいます」→6人

「おつかれさまでした」→4人

「ありがとう」→4人

「ありがとうございます」→2人

「もう大丈夫です」→1人

「すみません」→1人

⑩ 人に物を贈るとき

「どうぞ」→12人

「ほんの気持ちですから」→2人

「遠慮しないで」→2人

「これあげる」→2人

「つまらないけど」→1人

⑪ 人に物を贈られたとき

「ありがとうございます」→11人

「すみません」→1人

「どうも」→1人

4、調査から見えてきたもの

① 人に呼びかけるとき

同輩や年下の場合、「すみません」は2%、「すいません」は3%と少なく、気軽に親しみを込めて、名前で呼んだり、「おーい」「ねえねえ」「なあ」という相手の注意を引くための呼びかけの言葉が70%を占めた。

年上の場合に34%が使用した「すみません」、27%が使用した「すいません」は、〈年上だから〉〈敬意を払って〉〈丁寧に〉という使用理由が多いことから、相手に対し失礼にならないような配慮・気遣いがうかがえる。

留学生の使用は「すみません」が59%であった。日本語学習者が日本語を学ぶとき、最初にテキストとして使う一般的な『みんなの日本語 初級 I・II』(以下、テキストと記述する)

では、人に呼びかけるときの表現として、「すみません」が出ている。留学生は学習したとおりに答えている。

② 人を訪問するとき

同輩や年下、年上どちらの場合も、「おじゃまします」の使用が40%を超えた。

同輩や年下の場合には、〈気軽に〉〈かしこまる必要がないから〉という使用理由から、「ちわっす」「ういー」「やあ」など親しみを込めた言葉や、「くるけーん」(熊本)、「おじゃました」(熊本)という方言もあった。

年上の場合、「おじゃまします」の次に「失礼します」の使用が19%で、相手に対する敬意や礼儀がうかがえる。

留学生の使用は「おじゃまします」が53%、「失礼します」が42%であった。テキストには人を訪問するときの挨拶として「ごめんください」「失礼します」と出ているが、「ごめんください」を挙げたのは、5%と少なかった。

③ 人に訪問されたとき

同輩や年下の場合、「いらっしゃい」の使用が32%、「どうぞ」が20%で、その他は「やあ」「うい」「おう」など気軽に言えるくだけた表現が使われている。

年上の場合、「どうぞ」の使用が23%、「いらっしゃいませ」が14%、「いらっしゃい」が9%で、〈年上だから〉〈敬意を込めて〉という使用理由から、相手への配慮がうかがえる。少数であるが、「どうぞ中にお入りください」「ようこそいらっしゃいました」「どうぞおあがりください」など、歓迎する気持ちを表わす「ようこそ」や「どうぞ」「ください」という表現を使うことにより、年上への配慮・気遣いを表わしている。

留学生の使用は、「どうぞ」が59%、「おあがりください」が29%であった。テキストでは、「いらっしゃい」「どうぞおあがりください」と出ている。しかし、日本の生活の中で「どうぞ」のみの使用が多いことから、6割もの留学生が「どうぞ」を挙げたと考えられる。

④ 初対面の人に会ったとき

同輩や年下の場合45%、年上の場合59%が「はじめまして」を使用している。

同輩や年下の場合、改まって言うと恥ずかしいからか、照れ隠しなのか、「うい」「ちゃーす」「ちーす」といった若者特有の呼びかけの言葉が使用されている。

年上の場合、「はじめまして」のほかは「こんにちは」の使用が14%、「よろしくお願ひします」が5%であり、〈年上だから〉〈失礼のないように〉〈敬うため〉〈丁寧に〉といった相手に対する敬意が表われている。

留学生の使用は、「はじめまして」が82%であり、テキストでも「はじめまして」と出ている。

⑤ 人にものを尋ねるとき

同輩や年下の場合、「すみません」が12%、「すみません」が10%で、〈常識〉〈礼儀〉という理由から使用されている。また、〈気楽に〉〈親しみを込めて〉という理由から、「ねえ」「なあなあ」「おーい」という呼びかけの言葉が使われている。また、相手に対する親近感からか、「これ～やと」(宮崎)、「これ～け」(長崎)、「これなんなん」(福岡)などの方言が使われている。11%の使用があった「ちょっといい?」や、「ちょっとごめん」「ごめん」「わるいけど」は、詫びの表現が使われ、同輩や年下であっても相手への気遣いが表われている。

年上の場合、「すみません」の使用が36%、「すみません」が28%である。〈年上だから〉〈敬意〉という使用理由であるが、さらに「ちょっとよろしいですか」「少々よろしいですか」「すみませんが、よろしいでしょうか」など、より丁寧に改まった言い方を選択している。

留学生の使用は、「すみません」が82%であり、テキストでも「すみません」と出ている。

⑥ 人に感謝するとき

同輩や年下の場合、「ありがとう」の使用が81%である。少数では、「あんがと」「あざーす」「サンキュ」など親しみを込めた若者特有

の表現が使われている。

年上の場合、「ありがとうございます（ました）」の使用が88%で、「あざっす」の使用が2%あった。年上に対しても「あざっす」を使用する学生がわずかでもいるということは、この表現が浸透し、彼らにとっては、年上に対する使用でも違和感のない表現になりつつあるということであろうか。

留学生の使用は、「ありがとうございます（ました）」が88%であり、テキストでも「ありがとう」「ありがとうございます（ました）」と出ている。

⑦ 人に謝るとき

同輩や年下の場合、〈親近感〉や〈かしこまる必要がない〉という理由から「ごめん」の使用が70%である。しかし、相手への礼儀から「ごめんなさい」「すみません」「すいません」「申しわけない」という表現も使われている。

年上の場合、「すみません（でした）」の使用が37%、「すいません（でした）」が30%、「ごめんなさい」が24%であった。また、少数であるが、〈丁寧に〉〈失礼のないように〉という理由から、「申しわけありません（でした）」「申しわけございません（でした）」を使用する学生もいた。

留学生の使用は、「すみません」が37%であり、テキストでは「すみません」が出ている。テキストには出てこない「ごめんなさい」の使用が33%、「わかった」「すまん」の使用もあり、これらは、日本の学生が使用していることから、日本で生活する環境の中で言葉を覚え、使用するようになったと考えられる。

⑧ 人から謝られたとき

同輩や年下の場合、「いいよ」の使用が38%、「いえいえ」が7%、「大丈夫」が6%であった。「気にしないで」「気にするな」「別にいいよ」と相手を気遣う表現も多かった。また、「いいバイ」（福岡）、「気にせんでよかよ」（熊本）、「全然ええでえ」（大阪）など方言を使って、相手の気持ちを和らげる表現も使われている。

年上の場合、「大丈夫です」の使用が18%、「いいですよ」が12%、「いえいえ」が12%であった。また、「わたしは大丈夫だから」といった「自分」を中心にとらえた「全然大丈夫です」「大丈夫ですよ」「全然いいですよ」という表現と、相手に「気にしないで」という意味で「お気になさらずに」「気になさらないでください」「気にしてません」「いえいえこちらこそ」など、相手を気遣う表現が多く使われている。

留学生の使用は、「大丈夫です」が59%、「どういたしまして」が35%であり、テキストでは「わかりました」「そうですか」と出ている。どちらの表現も答えた留学生はいなかった。

「大丈夫です」「どういたしまして」という表現は、日本で生活する環境の中で習得したと考えられる。

⑨ 人をねぎらうとき

同輩や年下の場合、「おつかれ」の使用が32%、「ありがとう」が21%、「おつかれさま」が6%であった。「がんばったね」「ありがとう」というねぎらいの言葉のほかに、〈敬語を使わなくていい〉〈気軽に話せる仲だから〉という理由から、「さんきゅ」「あざっす」「おっつー」というような親しみを込めた表現が使われている。

年上の場合、「おつかれさまでした（でした）」の使用は40%、「ありがとうございます（ました）」が21%、「ご苦労様です」が4%であった。年上であるので、丁寧に失礼のない表現が使われている。

留学生の使用は、「おそれいます」が35%、「おつかれさまでした」が24%であった。テキストでは「おつかれさまでした」「ご苦労様」が出ているが、「ご苦労様」と答えた留学生はいなかった。

⑩ 人に物を贈るとき

同輩や年下の場合、「どうぞ」の使用が42%、年上の場合も52%と多かった。同輩や年下の場合、次に多かったのが「あげる」が13%、「はい」が12%であった。「あげる」は、〈親しみや

すく)〈かしこまる必要がない〉という、相手への親近感からくる表現として使われている。また、照れ隠しからか、明確な表現ではない、「はい」「へい」「どう」という言葉が使われている。

年上の場合、「どうぞ」の次に多かったのが、「つまらないものですが」の使用が11%、「よかったらどうぞ」が3%であった。〈年上だから〉〈丁寧に〉〈敬意を込めて〉という理由から使用されている。また、相手が年上であることから、「よかったらどうぞ」「もしよかったら」のように「よかったら」、「もらってください」「うけとってください」のように「ください」という、相手に対する気遣いや敬意の表現がうかがえる。

留学生の使用は、「どうぞ」が71%であった。テキストでは「ほんの気持ちです」が出ており、これを答えた留学生は12%であった。他に「これあげる」「つまらないけど」の使用があり、これらの表現は日本で生活する中で習得したと考えられる。

⑩ 人に物を贈られたとき

同輩や年下の場合、「ありがとう」の使用が77%、「ありがと」が3%、「どうも」が3%であった。「あざーす」「サンキュー」という気軽な表現も使われている。

年上の場合、「ありがとうございます(ました)」の使用が77%、「ありがとう」が3%であった。年上に対する礼儀から使われているが、ほかにも「ありがたくうけとります」「恐れ入ります」「いただきます」という敬意を表す表現も使われている。また、「あざーす」「あざっす」の使用もあり、理由に〈敬意を込めて〉とあることから、使用している学生にとっては、「あざーす」も「ありがとうございます」と同じ感覚で使用していると考えられる。

留学生の使用は、「ありがとうございます」が65%であり、テキストには「ありがとうございます」「どうも」が出ている。しかし、「どうも」と答えたのは6%であった。

5、おわりに

私たちが社会生活、日常生活をよりよく送るには、相手とのコミュニケーションをとることが大事である。その第一歩が挨拶である。挨拶をすることは、円滑な人間関係を築くための簡単かつ重要な手段である。

日本人において、自由に、かつ自在に言葉を操っているのが若者、大学生である。その大学生に今回日常的な挨拶語も調査したが、相手や場面に関わりなく、一定の形式化された言葉が使われていた。よって、さまざまな挨拶語がでてくることを予想して、非日常的な挨拶語も調査することにした。

相手が年上の場合、敬意や丁寧さ、また、失礼がないようにという理由から形式的な言葉が使われており、心配り、配慮が表われている。相手が同輩や年下の場合、気軽に話せるという理由から、くだけた言葉や方言が多く使われていた。また、留学生が〈おもしろい〉と感じた「ういーす」「あざーす」という言葉は、調査の中にもあがっており、まさに、大学生が使っている生きた言葉といえよう。

今回の調査結果からもわかるように、大学生は相手や場面において、挨拶語を見事に使い分けている。この結果から、日本語教育の現場でも、社会生活の中で必要な相手や場面によって、使い分けができるような指導も必要になってくるであろう。言葉は生きている。だからこそ、教科書上での知識としての挨拶語だけではなく、生きている言葉、つまり、社会生活、日常生活の中で実際に使われている挨拶語も身につけさせることが必要であると考えられる。

留学経験のある日本語学習者は、大学内や日常生活の中で、あらゆる日本語に触れているので、教科書で学習した挨拶語は一般的に年上の人を対象に使用する機会の多いことがわかるだろう。しかし、留学経験のない日本語学習者は教科書で学ぶ挨拶語しかわからないので、会話の学習の中で、若者が使用する気を遣わない挨拶語も挨拶語の一つとして教える必要がある。さらに、挨拶語は一通りではなく、話す相手や場面によって、使い分けをしていることも指導

する必要があると考える。

参考文献

- 1) 住田幾子 (1990) 「感謝のあいさつことば—『ありがとう』と『すみません』について—」
- 2) 皇麗梅・川本信幹 (1997) 「日本語・中国語における挨拶語の比較研究—中国における日本語教育の視点から—」
- 3) スリーエーネットワーク編 (1998) 『みんなの日本語 初級Ⅰ』スリーエーネットワーク
- 4) スリーエーネットワーク編 (1998) 『みんなの日本語 初級Ⅱ』スリーエーネットワーク
- 5) 曲志强・林伸一 (2009) 「日本語と中国語のあいさつ表現について—外国人研究者の特別授業より—」
- 6) 日本語記述文法研究会編 (2009) 『現代日本語文法7』くろしお出版